

安心して住める 村を目指します

本村を含む岩手県沿岸は世界有数の津波常襲地帯で、明治、昭和と過去2度にわたり尊い生命や貴重な財産が失われました。今後宮城県沖地震の発生が30年以内に99%、20年以内に88%と予想される中、本村でも過去の教訓を生かした津波対策が急務と考えられています。

昨年の暮に2度も発生した北海道沖地震による津波注意報は、本村を含む沿岸住民に大きな動揺と不安を与えたところです。



静かに施政方針演説に耳を傾ける皆さん。村の将来を真剣に考えます

県や村では平成17年度に津波防災マップを作成し、村民の皆さまへの啓発に努めるとともに平成18年度は、日本海溝、千島海溝、周辺海溝型地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法により、津波からの避難者、地震防災対策に関する各種計画の作成に取り組んでいます。村民の人命と財産を守り「安心して暮らせる村づくり」のため一層努力する所存です。

「財政健全化」の 取り組みは必然

現在、地方自治体を取り巻く環境は、日常生活圏の拡大

や高度情報化社会の進展、さらには少子高齢社会の到来、人口減少など、大きな転換期を迎えています。これから第2期地方分権改革の時代といわれています。本

村についても、この厳しい時代を乗り切るために、新たな時代に対応できる「地域資源を活かした特色ある村づくり」が、幅広い観点から求められています。

国は、地方分権改革推進法を成立させるとともに「頑張る地方応援プログラム」を19年度から導入するなど、地方の自主性を高めた一層の自己改革を求めています。

本村でも、財政の健全化など山積する課題に適切に対応しながら、グローバルな村づくりを理想とする「北緯40度東端の地球村」構想実現に、力強い取り組みを行うことが必要であると考えていますので、村民の皆さまの一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

村政運営の基本 発展計画を展開

さて、村政運営の基本方針について申し上げますが、普代村のマスタープランである「新普代村総合発展計画（後期基本計画）」の4本の柱をメインテーマに19年度も継続



豊かな地域資源をどう生かすかがこれからの村づくりのカギを握ります

した取り組みを行います。

その基本施策の一つ目は「人を育てる人を活かす」、二つ目は「地域の資源を知恵と努力で活かす」、三つ目は「恵まれた自然を活かして快適な生活環境をつくる」、四つ目は「住民参画による開かれた行政活動を展開する」です。これらの実現に向けて村民の皆さまと英知を結集し、創意工夫を凝らし、未来に明るい希望が見える村づくりのため挑戦する所存です。

苦しいときこそ 村民一丸の精神

今、国が進めている行財政改革、地方分権、市町村合併の継続、さらにはさまざまな

国民負担を法制化する中で、地方自治体は厳しい行財政運営を強いられています。

今こそ、村民一丸となって村政運営を進めていかなければなりません。そして夢や希望を実現させていくため、特色ある地域づくりに取り組み、変革を恐れない勇氣、未来への希望を失わない目標への強い意志、苦しさから立ち上がるやる気を持つ強靱さが必要であると思います。

誰もが普代村に誇りを持ち、恵まれた自然や歴史、文化などの資源を活かし、痛みや苦しみを共有し、新総合発展計画の基本理念とする「地域資源を自ら活かし、自立する村づくり」に村民の皆さまが一つにまとまり、将来の普代村について議論し、共に未来を切り開いていくことが、私に課せられた責務であると深く認識し、精一杯努力していく所存です。

村民の皆さま、議会議員の皆さまのより一層のご理解、ご協力、そして村づくりへの積極的なご参加をお願い申し上げます。平成19年度の施政方針とさせていただきます。